

# 僕らは「笑い」で世界を変える

## ——漫才で覚える日本語

お笑い芸人による「漫才で覚える日本語」。社会課題の解決に向けた挑戦とは。

フランボネ マヌー島岡

### 何かできることはないか

日本に住んでいる外国人の数は276万人(2022年)に上る。一部の地方自治体では人口の10%以上が外国人という地域もあり、今後さらに増えていくと考えられる。そんな外国人の中には日本語ができない人もいる。特に深刻なのは、外国人の子どもたち。小学校や中学校に行っても日本語が理解できないため勉強についていけず不登校になるなど、子どもたちへの日本語教育は重要な社会課題だ。日本で学ぶ留学生だって日本語に苦戦しているに違いない。そこで、芸人として何か社会に貢献できることはないかと模索した結果、「漫才で覚える日本語」の授業を始めた。これならユーモアを交えて楽しく笑いながら継続的に活動できる。

#### 「漫才で覚える日本語」とは

漫才で覚える日本語は、文字通り「漫才」をつくりながら日本語を勉強する学習方法である。

開発経緯はこうだ。僕の妻であり、漫才コンビ「フランボネ」の相方であるスイス人のシラちゃんは結婚を機に来日した。日本語学校に通



国際夫婦漫才コンビ「フランボネ」(左が筆者、右がシラちゃん)

うのだが、文法中心の授業に限界を感じる。その後、僕たちは吉本興業が運営する芸人養成所「NSC」に入学し台本なしのしゃべる訓練を経験した。それを日本語教育に応用したのが「漫才で覚える日本語」なのだ。

#### こんな講義をやっている

どんな授業かというと、漫才を実演して見せた後、生徒同士でコンビを組んでもらう。そして、①コンビ名を決める、②簡単な漫才をつくらせる、③授業の終わりに生徒がつくったネタを披露する。

「ボケ」は「トボケル」に由来、面白いことをいう人。「ツッコミ」は説明したりストーリーを展開したりする人。基本的にコンビ(2人以上)でやる。

コンビ名の付け方に決まりはないが、覚えやすい名前、インパクトのある名前、変な名前、面白い名前が良い。例えば、好きな食べ物と嫌いな食べ物を組み合わせて「スシアンコ」、おじいちゃんとおばあちゃんの名前から「ヨネとタロウ」、面白い響きの言葉「アヘアヘ」「ペロペロ」「カリカリ」「ウンポコ」……。パロディ風の名前であれば「ENTRANCE」「ザ・コックローチズ」など。「やくみつゆ」「モルヒネドラゴン」「しゃぶしゃぶ中毒」のような危ない名前もOK。コンビ名が決まったら「飛び出し」ができる。ボケ・ツッコミ「どうも～」、ボケ「XXX人のYYYです」、ツッコミ「コンビ名は?」、ボケ・ツッコミ「ZZZで一す」「よろ